

新型コロナウイルス感染症予防接種に関する説明書

1. 新型コロナウイルス感染症とは

ウイルスを含む飛沫やエアロゾル（ウイルスを含んだ小さな水分）を吸い込んだり、ウイルスを含む飛沫が口、鼻、目などの露出した粘膜に付着することで感染します。主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状であり、頭痛、下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害を呈する場合があります。高齢者及び基礎疾患を持つ方においては、重症化するリスクが一定程度あると考えられています。

2. 副反応

主な副反応は、注射した部位の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等です。また、稀に起こる重大な副反応としてショックやアナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があります。なお、本ワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。ごく稀ではあるものの、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

3. 接種対象者・意思の確認など

法律上の対象者は、満65歳以上及び60歳～64歳で心臓や腎臓、呼吸器等に身体障害者1級程度の重い病気のある方です。しかしこの予防接種を受ける義務はなく、ご本人が接種を希望する場合のみ予防接種を行います。そのため、接種を受けるご本人が責任をもって問診票に記入・署名してください。病気などの理由でそれが困難な場合は、家族やかかりつけ医が慎重にご本人の意思を確認し、決定する必要があります。

4. 予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱のある人（一般的に体温37.5度以上の場合）
- ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③新型コロナワクチンで、アナフィラキシー等を起こしたことがあることが明らかな人
- ④その他、予防接種を行うことが医師に不適当な状態と判断された人

5. 接種後の注意

- ①予防接種を受けた後約30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日は体調の変化に気を配り、激しい運動や大量の飲酒は控えましょう。

6. 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障がいが残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、健康福祉課へご相談ください。